

幼稚園が矛盾報告

愛媛県西条市で昨年7月「西条聖マリア幼稚園」のお泊まり保育で川遊びをしていた吉川慎之介ちゃん(当時5)が溺死した事故で、幼稚園が学校に義務付けられている安全計画を策定していなかったにもかかわらず、文科科学省の調査には「計画あり」と矛盾する報告をしていたことが18日、幼稚園関係者への取材で分かった。

安全計画ないのに「ある」

愛媛県西条市で昨年7月「西条聖マリア幼稚園」のお泊まり保育で川遊びをしていた吉川慎之介ちゃん(当時5)が溺死した事故で、幼稚園が学校に義務付けられている安全計画を策定していなかったにもかかわらず、文科科学省の調査には「計画あり」と矛盾する報告をしていたことが18日、幼稚園関係者への取材で分かった。

「的なた計画はなかったが、別の書類をつなぎ合わせれば計画に準じる」と釈明。安全計画は学校保健安全法で義務化されているが、策定の基準はない。文科省も「不備とは言いが切れない」とするが、安全計画の実効性が問われる実態が浮かんできた。

慎之介ちゃんの父豊さん(48)は「こんなものでも計画になるのでは子どもの命は守れない」と訴えている。

幼稚園を運営する学校法人人口サリオ学園(松山市)の幹部によると、幼稚園は、毎月(1)と安全の点検事項を記した書類を、後に集めて安全計画とみなしていた。

新聞新四